

# 知立 弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

十月になりました。秋本番です。肌寒い日も増えますのでくれぐれもご自愛ください。

一昨年から「尾張名古屋・歴史街道を行く―杜寺城郭・幕末史―」をお送っていますが、今年も名古屋城と名古屋城下町をお送りしています。今月は**大須観音・万松寺・東西別院**です。

## ★大須観音と呼ばれる真福寺

**碁盤割町**人地の中には社寺が多数造営されました。とくに、碁盤割を南に下った辺りに規模の大きな寺院が建立されました。

**大須観音**の名で親しまれているのは**真福寺**です。発祥は建久年間(一一九〇〜九九九年)に創建された尾張国中島郡長庄大須郷の**中島観音**に遡ります。

一三二四年、後醍醐天皇が大須郷に**北野社**を興し、一三三三年、同社別当寺として**真福寺**が創建されました。戦国時代には**織田信長**も寺領を寄進します。

中島郡は洪水の難が絶えず、一六一二年、**徳川家康**の命で犬山城主**成**



**瀬正成**が真福寺を大須郷から名古屋城下に移転しました。

大須観音には尾張藩も保護した**真福寺文庫(大須文庫)**があり、古事記の最古写本をはじめ、扶桑略記、将門記、尾張国解文など、貴書を多数蔵します。

隣接して七三五年行基開創と伝わる**古刹、七寺(ななつでら)**があります。七寺は大須観音以上に大いに栄え、境内で芝居や見世物小屋が興行されていました。

## ★身代わり不動の万松寺

**万松寺**は一五四〇年、**織田信秀**が織田氏菩提寺として**那古野城**の南側に建立しました。

**竹千代(徳川家康)**は六歳で人質として今川義元から信秀に引き渡され、この寺で九歳まで過ごします。

信秀の葬儀は万松寺で行われ、嫡男**信長**が歌舞伎な格好で臨んで仏前に抹香を投げつけた話は有名です。

その信長が一五七〇年、越前朝倉攻めで浅井長政の離反にあって逃げ帰る途中、狙撃されました。鉄砲の玉は信長が懐に入れていた固い干し餅に当たり、九死に一生を得ました。

餅は**万松寺和尚**から貰ったものであったため、信長は**万松寺不動明王**の加護のおかげと深謝します。この話を聞いた**加藤清正**が万松寺の不動明王を「**身代わり不動**」と命名しました。

一六一〇年、名古屋城築城時に大須に移されます。江戸時代には尾張藩に庇護され、七堂伽藍の大寺院でした。

## ★江戸時代に登場した東西別院

東本願寺十六代法主一如を開基とする**真宗大谷派名古屋別院**は、一六九〇年、二代藩主**光友**より碁盤割南縁部の古渡城址地約一万坪の寄進を受け、一七〇二年に創建。

通称**東別院**、あるいは**東御坊**、**名古屋東別院**、**東本願寺名古屋別院**とも呼ばれます。

一八〇五年の本堂再建に当たり、豪商五代目**鈴木惣兵衛**は真宗に改宗したうえで東本願寺に多額の寄進をし、使用する材木一切の調達を一手に請負いました。

東別院は東海道方面からの敵勢進軍に対する城下町防衛の砦としての役割も担っていました。

東別院北西には**本願寺名古屋別院**があります。東別院に対して**西別院**と呼ばれます。

明応年間(一四九二〜一五〇一年)に本願寺八世**蓮如**の六男**蓮淳**が伊勢国長島に創建した**願証寺**が始まりです。

織田信長による伊勢一向宗攻めで廃寺となり、その後、本願寺十一世**顕如**が**織田信雄**に願い出て清洲の地に願証寺を再興。

一六〇九年、清洲越しの際に桑名に寺基を、名古屋城下に寺を移転し、名古屋願証寺は桑名願証寺の通寺とされました。

一七一五年に桑名願証寺が転派したことに端を発し、一七一七年、名古屋願証寺は西本願寺末寺の**名古屋御坊**となりました。

## ★濃尾崩れの栄国寺

東別院の北西、西別院の南東に**栄国寺**があります。江戸時代初期、この辺りは**千本松原**と呼ばれ、尾張藩の刑場がありました。

尾張国、美濃国では、**織田信長**や**信雄**がキリシタンを保護したため、キリスト教が広がっていました。清洲藩主**松平忠吉**、尾張藩の藩祖**義直**、二代**光友**も寛容でしたが、徐々に幕府の統制が厳しくなります。

一六三一年から藩内でキリシタン伝道者の処刑が始まり、一六四九年に**供養塔**を建立したのが当寺の始まりです。

一六六一年以来、尾張藩も多くのキリシタンを捕縛。一六六五年、尾張藩は伝道者二百余人を処刑することと他のキリシタンの助命を企図。しかし一六六八年、幕府の命令でさらに二千余人を処刑。美濃でも同様の展開であったため、この史実は**キリシタンの濃尾崩れ**と言われます。

一六六二年、二代藩主**光友**は刑場を土器野(かわらけの、新川)に移し、千本松原の供養塔の場所に**処刑者慰霊**のために堂宇を建てて**清涼庵**と名付け、一六八五年に**栄国寺**と呼ばれるようになりました。

凄惨な史実の背景には、幕府が尾張藩に対する統制を強める目的もあったようです。

## ★東寺町と南寺町と西寺町

名古屋城下では主に三つの地域に寺町が造られました。来月は**東寺町**と**南寺町**と**西寺町**です。乞ご期待。